

(5) ホームページによる公表

本校の取組みを広く社会に公表するため、本校のホームページにコンテンツ毎に整理して、逐次掲載することとしている。アドレスは次のとおりである。

<http://www.oita-ct.ac.jp/ae/index.html>



図 6.3-6 大分高専ホームページ入口部

第7章 事業終了後の取組み

本校は、平成 24 年 10 月に大分県国東市と、平成 25 年 3 月に大分県と包括連携協定を締結し、産学官連携による産業振興、地域振興への連携・協力を行うこととした。当時から国東市は「くにさき七島蘭」による産業の活性化に力を注いでおり、七島蘭の全自動織機の改良を本校に任せ、平成 25 年度に約 1 年間かけて改良を手掛け、一定の成果を挙げた。

これを機に、本校は、古川明德前校長の強い思いもあり、農業の役に立つ人材の輩出を目指すこととし、平成 26 年度の高専機構高専改革推進事業と平成 27 年度の高専機構教育改革推進本部プロジェクトに応募・採択され、「アグリエンジニアリング教育」の導入に向けた調査と課題整理を開始した。

平成 29 年度・30 年度には、文部科学省の KOSEN(高専)4.0 イニシアティブに「アグリエンジニアリング教育(研究)の導入」のテーマで応募・採択され、事業を開始することとした。

この 2 年間で採択された事業経費により、前章までに記述しているとおり、カリキュラムの構築、テキストの開発と担当講師の委嘱、協働 TV 講義システムの開発、e-learning 教材の作成、プログラム修了証の検討及び事業への外部評価の実施等を行い、併せて学生に対して教育プログラムを実施してきた。

平成 31 年度以降は、更に以下のような内容で取り組むこととしたいが、KOSEN(高専)4.0 イニシアティブの経費が平成 30 年度で終了し、学校の独自予算となるため、予算措置の方法を検討しながら、事業を推進したいと考えている。

7.1 協働 TV 講義「農学概論」の希望高専への配信

本教育プログラムの導入を希望する高専に対して、必須となる科目である「農学概論」を協働 TV 講義により受講できるように導入すべき設備とマニュアルの整備が必要である。

また、現在、一関高専及び都城高専にそれぞれの近隣大学や研究所等から講師が出向いて講義を行っているが、講師の手当及び旅費の財源の確保の検討が必要となる。

さらに、授業を行う曜日と時間帯の調整が必要となり、時間割編成上、希望高専全部が必ずしも同時間帯での受講が可能となる訳ではないので、講義「農学概論」の補完用に制作した e-learning 教材の活用や他の時間帯での録画配信について、整理する必要がある。

7.2 農学概論の講義を補完する e-learning 教材の再構築

第5章でも述べているとおり、農学概論の講義は、講師が大学で半期又は1年以上かけて行う講義内容を90分にまとめて講義を行っているので、教えた内容すべてを伝えることは不可能に近い、そのため、e-learning 教材を授業の補完教材として利用することとしている。

講師としては、1回の収録のみではすべての内容を網羅することができなかつたため、2回目、3回目と収録を重ねることにより、より充実した内容に再構築したいという要望もある。

また、この e-learning 教材は、高専の学生のみならず、企業に就職している技術者も自学・自習用に閲覧できるようにするためのシステムを構築する必要もある。

7.3 実習内容の開発と希望高専との共有

本プログラムを既に導入している高専が作成している基礎実習やPBL実習の指導書等を各高専が共有することにより（3.2節の「実習報告研究会」参照）、今後導入しようとしている高専が既存の実験実習内容を利用することによりスムーズに取り入れることができるため、他高専が利用しやすいように基礎実習やPBL実習の指導書等をホームページ等に掲載したいと考えている。

また、他高専が作成した指導書等のリンクを本校のホームページに掲載することにより、本校のホームページを閲覧すれば、その高専に合った指導書等を探し当てることができるようなシステム作りも必要である。

7.4 生産現場見学と農業関係講話の実施

生産現場見学や農業関係講話の実施について、実習科目や特活又は課題学習などの中で、プログラムの中に組み込み、本科生は卒業までに最低1回以上、専攻科生はどれかの授業科目の中で1回以上体験又は聴講ができるようなカリキュラムを検討する必要がある。

そのためには、農業関係企業や農家などとの連携・協力が必要であるため、本プログラムへの賛同を得たり、PRを行うなど、本事業の熱心な広報活動が必要である。

7.5 プログラム修了証の発行

本プログラムを大分高専、一関高専、都城高専以外の高専も導入し、プログラム修了証の発行を考えている場合は、その証明を、単に当該高専の校長が行えば良いのか、それともプログラムの修了を認証する組織が必要ではないかということになる。

平成30年度の修了者に対しては、当該高専校長の校長印と農業食料工学会の会長印により証明を行っているが（「3.5 プログラム修了証の発行、図3.5-1」参照）、今後どのようにするかを更に検討していく必要がある。

現在検討していることは、アグリエンジニアリング教育を導入する高専又は導入を検討している高専の校長による「アグリエンジニアリング教育連絡協議会（仮称）」（図7.5-1）を設立することである。この協議会でアグリエンジニアリング教育に係る授業科目、実習科目等の検討や協働講義の実施及び修了証の発行等について、協議できればと考えている。

この協議会に加盟した高専は、図 7.5-2 のとおり当該高専の修了学生に対して、当該高専の校長印を押印することにより証明が可能となるように検討を開始したところである。

高等専門学校アグリエンジニアリング教育連絡協議会(仮称)の設立について(素案)

平成31年3月
大分工業高等専門学校

1. 目的

高等専門学校が各々で導入しているアグリエンジニアリング教育(農学の素養を持った工学技術者の育成)(以下「AE教育」という。)を推進し、高等専門学校教育の向上に努めることを目的として、高等専門学校アグリエンジニアリング教育連絡協議会(仮称、以下「協議会」という。)を設立する。

2. 協議事項

協議会において、協議する事項は、次のとおりとする。

- (1) それぞれの学校においてAE教育に係る授業科目、実習科目等の高専のAE教育向上に努める方策の検討に関すること。
- (2) 会員間における協働講義の実施に関すること。
- (3) 修了証の発行に関すること。
- (4) その他、AE教育に関することで、会員が協議して定めたこと。

3. 会員

既にAE教育を導入しているか、又は、今後AE教育を導入する予定であり、協議会への加入を申し出た高専の校長とする。

4. その他

- (1) 協議会に議長を置き、当分の間、大分高専校長を持って充てる。
- (2) 必要に応じて、AE教育に関する情報交換、意見交換を行う場を設けることとする。
- (3) 協議会設立(案)について、賛同が得られた後に、設置要項を作成する。

以上

図 7.5-1 連絡協議会(仮称)の設立案

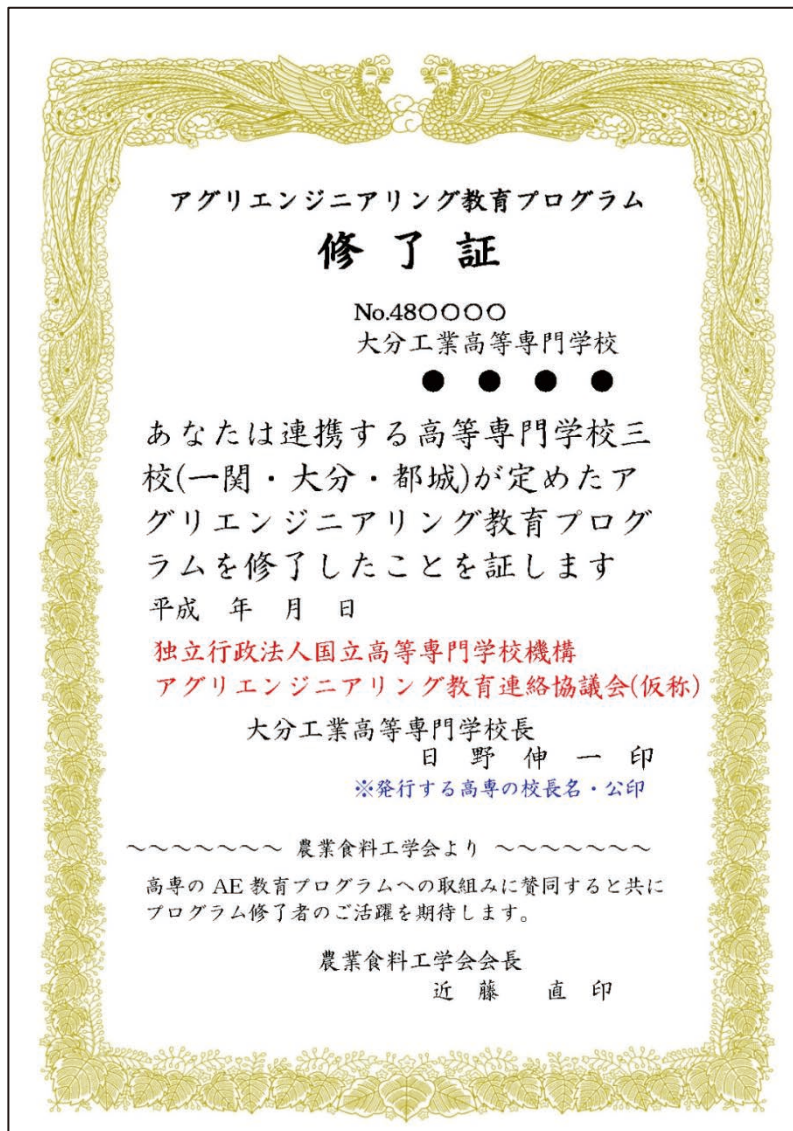


図 7.5-2 来年度以降の修了証案

7.6 アグリエンジニアリング研究への取組み推進

本校は、教員や技術職員の研究活動の支援や外部資金獲得等に関する支援等を行うため、平成 30 年 10 月に「研究推進室」を設置した。

現在行っているアグリエンジニアリングに関する教員の研究テーマ等については、第 6 章に掲載しているが、今後、更にアグリエンジニアリング研究を推進するために研究推進室を中心として、科学研究費や共同研究等の外部資金の獲得を目指したいと考えている。

また、地域貢献のために地域共創テクノセンターとも連携しながら研究を推進したいと考えている。

7.7 アグリエンジニアリング教育を実施する際に必要となる経費

平成 29 年度及び平成 30 年度は、文部科学省に採択された「“KOSEN(高専)4.0”イニシアティブ」により高専機構から予算措置されたため、本校のアグリエンジニアリング教育の導入において、大変ありがたい財源を確保でき、この 2 年間で総額約 2,200 万円を費やし、テキストの開発、授業担当講師、協働 TV 講義システム、e-learning 教材及び実験実習設備等その他諸々を整備することができた。

平成 31 年度以降は、予算措置がされないため、本校の特色ある教育プログラムとして学内予算での運用で継続して実施していきたいと考えている。

今後、他高専が本教育プログラムの挿入を検討する際の材料として、本校で、今後、必要となる経費を2年間の実績から推算した。その推算結果を表7.7-1に示す。

表 7.7-1 本教育プログラムの展開に要する年間経費推算値

事 項	内 訳 等	見 込 額 (千円)					合 計	備 考
		物品費	人件費	謝 金	旅 費	その他		
農学概論講師 依頼経費	12名		140	180			320	旅費含む
WEB 講義システム	授業配信を行う完全版1式を導入する場合	1,000						概算金額システムの内訳は、第4章4.6参照
	AVミキサー、ノートPC、キャプチャデバイス	460					460	授業を受信する場合のみ
	メンテナンス物品	100					100	
	システムメンテナンス技術協力謝金			108			108	5,400円×20時間
	メンテナンス出張旅費				310		310	都城1回×3人、一関1回×3人
講演会講師	東京から1名、2時間			18	100		118	
実地見学	スクールバス1台・1回分					30	30	
合 計	WEB 講義システム完全版を除く	560	140	306	410	30	1,446	